



今町



有名な「あやつり人形」の頭部に安政4年（一八五七）高山茂平と黒書あり、山車の創建もこれ以前と推定される。
 ・祭神：布袋 だし：千枚分銅
 ・彫刻：鏡板（聖賢五人） 舞台上／唐子、車輛八枚板、布袋和尚を本座に据え、相座に童子のでんぐり返しのからくりを仕掛けたのは、飛騨の高山祭の布袋屋台に共通している、民族文化財としても貴重である。

紺屋町



創建年代は、天保五年（一八三四）、補修は弘化二年（一八四五）
 ・祭神：恵比寿 だし：桐葉三枚に分銅
 ・彫刻：鏡板／「黄石公と張良」 舞台上／唐子と水波
 作者：井波町大島五雲父子
 鏡板の黄石公は中国泰時代の隠者で、張良に兵法を授けた人物。舞台上は螺鈿で、車体は総塗りの打抜き金具付きの豪華なものである。

博好町



創建年代は、天保四年（一八三三）
 ・祭神：住吉明神 だし：神子鈴
 ・彫刻：鏡板／「唐美人と從者（上段） 唐子（下段） 幕（刺繍）：龍
 舞台の前方には船先に菊紋章をつけた舟を飾り、住吉明神によって町民の安全を守る意味をこめていているという。舞台の側面の貝螺鈿・車の透かし彫りも優れている。

柳町



創建年代は、文政十一年（一八二八）飾り山車として、能州所口（七尾の付近）近江屋敷四郎製作
 ・祭神：壽老人 だし：管電
 ・彫刻：鏡板／「聖賢」 舞台上／唐人、水並に亀
 ・勾欄：打金、金具付、象眼、人形は赤銅欄干六本（前方二本、上段四本）は龍と虎を彫り、加賀藩政時代には柳町の至手として衆目を集めた。

下糸岡町



本体は、太鼓山車として文政六年（一八二三）に創建、明治三十三年に花山車に改造。
 ・祭神：大黒天 だし：あげ羽蝶
 ・彫刻：鏡板／「聖賢像」 舞台上／虎と十二支と唐子
 車体は手の込んだ透かし彫りで、かまちから上部の彫刻は明治三十三年当時でも高額で、さらに勾欄の漆と金箔等には昭和二年当時で相当の経費を充当している。

御坊町



創建年代は、宝暦二年（一七五二）、城端大工町で制作、本体の塗りも完成したのは安永三年（一七九四）である。
 ・祭神：千枚分銅 だし：鼓と笛
 ・彫刻：鏡板／「尉と姥」 上段側面鶴龜／後部七福神
 下段側面八千人／人形：四天王
 この山車は本体だけは、約二百五十六年前に出来たがそれ以前に現在のだしの原型である翁の面と鼓・笛が加賀白馬山麓にあったという言い伝えがある。

下新田町



創建年代は、鏡板が製作された安政三年（一八五六年）ごろ。
 ・祭神：毘沙門天 だし：太鼓に鶉
 ・彫刻：鏡板／「梵王に麒麟」 上段三枚彫り 二十四孝の物語 舞台上／水波に龍
 鏡板の梵王は古代中国の伝説の聖王で政治を治める理想の天子とされている。高欄と舞台上は平成十八年四月彫り替え新調。材料は木曾檜、作者：番匠屋十八代田村与八郎（實と十七代辰之助の両氏によるもの）。

中新田町



創建年代は、文化三年（一八〇六）
 ・祭神：応神天皇、武内宿禰 だし：唐冠
 ・彫刻：鏡板／「すさのおの尊の大蛇退治」
 舞台上／桐に鳳凰、龜に波、竹に虎、唐子と獅子
 ・勾欄下／浦島太郎、櫻幕：唐冠と笛（刺繍）
 透かし彫りの車輪の上に「かまち」を載せその上を斗拱出組で積み重ね、さらに舞台を設けて、祭神を本柱（心木）にもたせている。富山置屋百年曳山車祭参加出場。

上新田町



創建年代は、寛政十年（一七九八）
 ・祭神：閻魔、銚留 打出の小槌
 ・彫刻：鏡板／「聖賢と龍を覗く唐子」
 鏡板塗り／上段「唐獅子三枚」と「鳳凰」二枚
 幕：富士羽衣と鶴千載
 花笠の中心部（銅木）に寛政元歲（七八九）の文字が判読され、二百年以上経っていることを物語る。

北上野町



創建年代は、寛政十年（一七九八）
 ・祭神：閻魔、銚留 打出の小槌
 ・彫刻：鏡板／「聖賢と龍を覗く唐子」
 鏡板塗り／上段「唐獅子三枚」と「鳳凰」二枚
 幕：富士羽衣と鶴千載
 花笠の中心部（銅木）に寛政元歲（七八九）の文字が判読され、二百年以上経っていることを物語る。

北上野町



創建年代は、寛政十年（一七九八）
 ・祭神：閻魔、銚留 打出の小槌
 ・彫刻：鏡板／「聖賢と龍を覗く唐子」
 鏡板塗り／上段「唐獅子三枚」と「鳳凰」二枚
 幕：富士羽衣と鶴千載
 花笠の中心部（銅木）に寛政元歲（七八九）の文字が判読され、二百年以上経っていることを物語る。

小矢部市指定文化財 石動花山車

